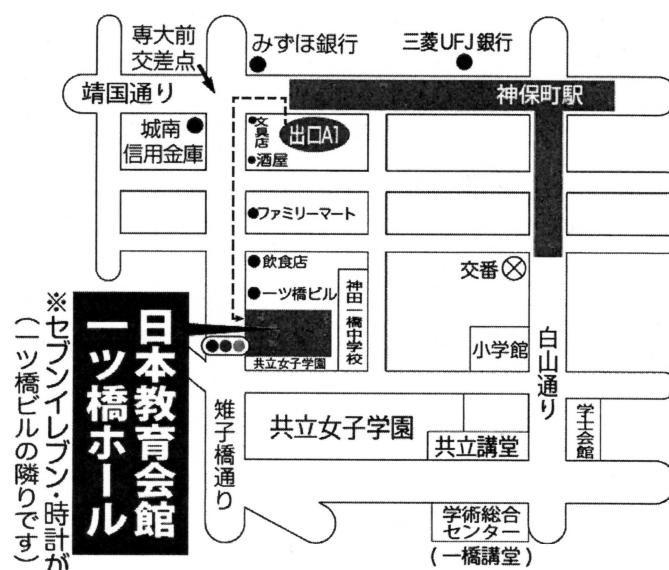
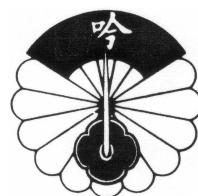


来場歓迎・入場無料

後援
N 東京都 文化庁
H
K

全国吟詠コンクール決勝大会

令和六年度



日本教育会館・一ツ橋ホール

〒101-0003
東京都千代田区一ツ橋二丁目6番2号 TEL. 03(3230)2831

(最寄駅) ●地下鉄都営新宿線・三田線・東京メトロ半蔵門線
神保町駅A1出口より徒歩約5分
●東京メトロ東西線 竹橋駅より徒歩約5分

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10虎ノ門35森ビル7階
電話 (03) 6721-5950 (代表)
FAX (03) 6721-5960

●とき 令和6年9月16日（月・祝）
午前9時開場・午前9時30分開始

●ところ 日本教育会館・一ツ橋ホール（裏表紙参照）

主催

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

大會次第

- 一、開会の辞
- 一、国歌斉唱
- 一、財団会詩合吟
- 一、財団代表挨拶
- 一、競吟実施要項説明
- 一、審査委員紹介
- 一、競吟・青年の部
- 一、競吟・少年の部
- 一、競吟・一般一部
- 一、競吟・一般三部
- 一、競吟・一般二部
- 一、審査講評
- 一、審査結果発表
- 並びに入賞者表彰

(注意) 一、役員集合 午前八時三〇分
二、出演者集合 午前九時〇〇分

時間厳守

吟劍詩舞道憲章

詩歌は人の心の表現であり、すぐれた詩歌は人類文化の遺産である。われわれの先達は、この詩歌を吟じ、その吟により舞うことを考え、芸としての向上進歩を目指して精進努力を重ね、吟詠・劍舞・詩舞というわが国独自の高雅な芸道を育てあげた。

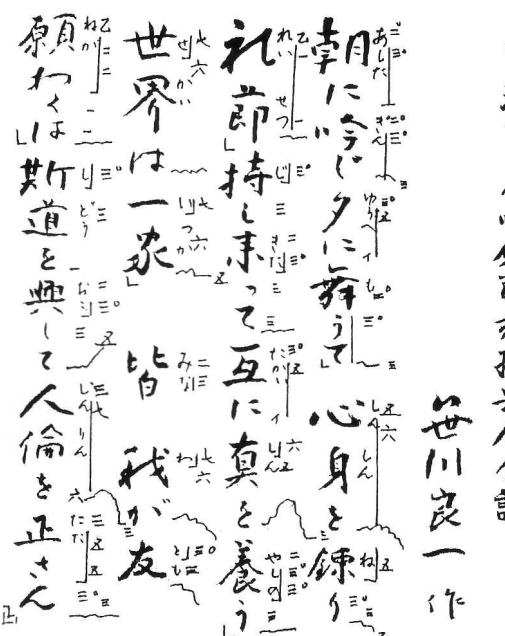
吟劍詩舞道は礼と節を、その心とする。詩歌に親しんで情操を高め、日本民族の心を探求しながら自己の陶冶を志向するこの芸道こそ、わが国の精神文化の高揚に不可欠のものである。

われわれはこの価値ある吟劍詩舞道を受け継いだことに大きな誇りをもつと同時に、各人の研鑽と相互の協力によってますます斯道を隆盛に導く責任を果たさなければならない。しかも、その実践は、この芸道の心すなわち礼と節の上にたたなければならぬ。その軌範として、この憲章を制定する。

昭和五十年一月十一日

財団法人 日本吟劍詩舞振興会
会長 笠川良一
ほか 役員一同

- 一、基本姿勢
- 吟劍詩舞道を行なう者は、礼と節とを行動の軌範とし、日々、芸の研鑽と品性の陶冶に努める。
- 二、指導者の心構え
- 吟劍詩舞道を指導する者は、みずから師たるにふさわしい人格、識見を備え、指導全般にあたっては権威をもつて臨む。
- 三、師に対する心構え
- 吟劍詩舞道を学ぶ者は子弟の礼節をわきまえ、秩序を堅持する。
- 四、分家・独立
- 吟劍詩舞道を行なう者が分家・独立する場合は、その組織を代表する者の許しを得る。
- 五、他流との関係
- 吟劍詩舞道を行なう者は他流の名誉を傷つけ、秩序を乱すような言動は厳に慎しむ。
- 六、吟劍詩舞道の普及向上
- 吟劍詩舞道を行なう者は、大衆性と芸術性とを併せもつ斯道の今日像を正しく伝え、特に青少年層における吟劍詩舞道の普及向上に努める。
- 七、吟劍詩舞道の目標と相互の協力
- 吟劍詩舞道を行なう者は、相互に協調、互譲の精神をもつて斯道の普及振興に協力し、本会の認める姉妹団体とも動物有機体的團結をもつて日本の伝統に基づく國家社会の正しい發展に寄与する。



令和四年度

少年の部	岩永 克衛	(長崎)
青年の部	鈴木 愛琉	(群馬)
一般一部	本田 陽彦	(福岡)
一般二部	綿谷未由子 高橋 恵子	(三重) (福島)
一般三部	中村利江子	(香川)

令和五年度

少年の部	綿谷 奏音	(三重)
青年の部	林 一希	(大阪)
一般一部	東 瑞	(天阪)
一般二部	荒崎 春奈	(神奈川)
一般三部	伊藤 利博	(愛知)



— 令和六年度全国吟詠コンクール
決勝大会開催にあたって —

よりいっそうの

吟道振興を

(公財)日本吟劍詩舞振興会

会長 沼崎 富

であり、今までの日本の民族精神の形成において大きな役割を果たしてきたばかりでなく、これからわが国の精神文化の高揚においても大きな期待がかけられています。

この吟詠が、いまや全国的な規模で、一般はもとより、次代をになう青少年の間におきましても盛んになっておりますことは、まことに喜ばしいことであります。

本大会は、これら吟道に親しむ皆様に対し、日々研鑽の成果を競いあう場を与えて、よりいっそうの吟道振興の資とするものであります。

出場者の皆さんにおかれでは、日ごろの精進の成果を十分に発揮して、よりよい成績をおさめられるよう希望し、また、ご来場の皆さまがたに対し、深く敬意を表しますとともに、

本大会のためいろいろご準備をいただきました大会役員のかたがたに対しましても深く感謝申し上げます。

吟詠は、老若男女だれでも気軽に楽しめる伝統芸道であると同時に、その芸を通して人の道、特に“礼と節”を教えるもの

最後に皆さまのご健康を祈念して、私の挨拶といたします。

令和六年度全国吟詠コンクール決勝大会役員

向山 安部 松井 高木 芳倉 吉田 北瀬 飯田 黒田 澤石 宮川 嶋洲
 侑吟 洗靈 松聲 法洲 清峰 觀心 岳櫻 報信 錦洲 秀月 紫朋 峯洲
 日向美代峰 伊藤 原田 佐藤 古川 山田 渡邊 遠藤 毛塚 斎藤 宍戸 高田
 翠鳳 瑞祥 翔風 壽泉 静将 皇洲 晃楓 靜精 心晃 岳莊 龍明
 吉本 藤本 柿内 中林 藤上 山口 山本 白井 田中 池田 高橋 野村
 緑翠 誠堂 岳正 凉風 翔山 華雋 演志 寛洲 国臣 嶺煌 岳粹
 中武 河野 德田 楠部 渡辺 堀口 松澤 小松 石井 上田 館岡 奥鵬
 玲星 鶴聲 寿風 齋山 紘山 孝心 天楓 獅劍 桃苑 岳美 奥鵬

△県連代表
 池田 毛塚 小林 静精 丹治 岳章 独風 嶺煌 熊木 奥村 寺山 栗野
 雪洲 精暉 天洲 電暉 木村 鈴木 山下 鈴木 鳳鶴 神燈 海洲 小峯 久保田 正峰
 洩木 洩玉 洩玉 洩玉

平成二年年度
 幼年の部 富本ヨサリー(神奈川)
 少年の部 田村 勇樹(大阪)
 青年の部 菅 美恵子(兵庫)
 一般一部 角地 慶子(福岡)
 一般二部 滝田 主計(東京)
 一般三部 白石 秀雄(東京)

平成五年度
 幼年の部 加藤 亜弥(愛媛)
 少年の部 池田 拓真(奈良)
 青年の部 鈴木 聖子(愛知)
 一般一部 鈴木 拓真(神奈川)
 一般二部 渡辺 盛(東京)
 一般三部 上山 寿子(和歌山)

平成八年年度
 幼年の部 今 由香里(大阪)
 少年の部 池田 篠朗(奈良)
 青年の部 原 弦太朗(兵庫)
 一般一部 岩谷 定雄(愛媛)
 一般二部 熊本 鉄郎(東京)
 一般三部 青木 茂(静岡)

平成十一年度
 幼年の部 後藤 啓佑(三重)
 少年の部 井戸 隆裕(大阪)
 青年の部 山岡 三千世(兵庫)
 一般一部 尾崎 富美(三重)
 一般二部 伊藤 昇(愛知)
 一般三部 松永眞由美(三重)

平成十四年度
 幼年の部 西田 和樹(山口)
 少年の部 後藤 未由子(三重)
 青年の部 鍋谷 明美(大阪)
 一般一部 佐藤 弘(福岡)
 一般二部 中島 豊(奈良)
 一般三部 桜井 進(東京)

◎舞台委員長	◎連絡委員長	同 同	◎受付委員長	同 同	◎資材管理委員長	同 同	◎総務広報委員長	運営委員
田中竜真	榎井土澤	石井中山	斎木小倉	荒井藤田	滝本黒柳	上久保雪女	亀井春奈	大原侑実
	裳風美岳	桃苑彩操	彩染契秀	霜晃剛嶺	麗岳誠心		綾香	長嶺祝子
		宇井修光		小谷野煌弘	梶原麗修			河野良宗

全国吟詠コンクール決勝大会優勝者一覧表

◎同	同	同	同	◎賞典委員長	◎同	◎同	◎詩文監査委員長
同計時委員長	同司会委員長	同副委員長	同副委員長	同音響委員長	同副委員長	同接待委員長	同副委員長
副委員長	副委員長	副委員長	副委員長	佐々木翠鵬	武藤雪洲	高橋星野	伊藤中野
門倉山田	大山丹治	田中湯口	岡田和田	小峯	熊木嶺栄	中嶋星野	美声吟紫
香江伯峯	宗鵬独風	國臣尤堂	一穗岳政	吳苑	劍鵬	晃鶴	春海
秋山精正	今村契鉅	栗本木屋	溪山萩優	三枝	長谷川煌研	塙下真秋	湊紀器
	石川			須藤			
	春海			紘誓			
◎同	◎同	◎同	◎同	◎集計委員長	◎同	◎同	◎同
総務事務課員長	事業課長	事務局長	事務局長	賞状作成委員長	副委員長	接待委員長	文監査委員長
森谷文子	大塚政暢	大田直樹	大田	石井	林	高橋嶺香	伊藤中野
				石井	長谷川稀泉	中嶋晃鶴	美声
				嶺亮	煌彩	星野	春海
				齋藤		古賀	加藤
				鳳瑛		佳嶺	契麗
				縣		西岡	紫榮
				鷹雪		綠優	契琵

令和六年度全国吟詠コンクール指定吟題

令和七年度全国吟詠コンクール指定吟題									
● 幼年・少年の部					● 青年・一般の部				
(絶句編)					(絶句編)				
①九月十日	(菅原道真)	①山の夜	(嵯峨天皇)	⑩偶成	(朱蘇杜白憲)	②富士山	(石川丈山)	②武野の晴月	(林羅山)
②富士山	(草場佩川)	③三樹の酒亭に遊ぶ	(菊池溪琴)	⑨春夜	(新島襄)	④桂林荘雜詠諸生に示す(その一)	(元)の安西に使するを送る	⑤汪倫に贈る	(乃木希典)
③山行同志に示す	(広瀬淡窓)	⑥除夜の作	(高適)	⑩偶成	(孟浩然)	⑦凱旋	(柳宗元)	⑧楠公を詠ず	(目柳燕石)
④桂林荘雜詠諸生に示す(その二)	(新島襄)	⑧江南の春	(李白)	⑨江雪	(李白)	⑩己亥の歳	(曹松)	⑩偶成	(朱蘇杜白憲)
⑤寒梅	(孟浩然)	⑥春曉	(李白)	⑩偶成	(朱蘇杜白憲)	⑦早に白帝城を発す	(新島襄)	⑨春夜	(朱蘇杜白憲)

142	141	140	139	138	137	136	135
藤本龍二	西京子	佐野誠樹	井川良得	得能あけみ	内山寛子	安孫子美佐子	正時賢二
長崎	福島	兵庫	茨城	愛媛	大阪	山形	道央
従軍行	(江碧にして) 絶句	時に頽う	時に頽う	壇の浦を過ぐ	峨眉山月の歌	西南の役 陣中の作	時に頽う

150	149	148	147	146	145	144	143
春藤薰於里	螻川内初代	谷口宏明	土田絵里香	山村幸子	金堀孝行	庄多美子	眞鍋並樹
大分	大分	佐賀	神奈川	大阪	広島	兵庫	愛媛
時に憩う	西南の役 陣中の作	西南の役 陣中の作	壇の浦を過ぐ	西南の役 陣中の作	西南の役 陣中の作	夏日悟空上人の院に題するの詩	西南の役 陣中の作

月刊『吟劍詩舞』ご購読のお願い	佐藤正美	寺井修三
月刊誌『吟劍詩舞』は、指導者および一般愛好者の皆さんに不可欠の吟劍詩舞道界の幅広い情報誌として、また、教養誌として発行されています。	長野	長崎
購読料は年間五、〇〇〇円（送料込）です。お申し込みは、公益財団法人日本吟劍詩舞振興会事務局『吟劍詩舞』係まで、購読料を添えてお申し込み下さい。どうぞ、おどなたでも購読できます。	（江碧にして）	西南の役 陣中の作
気軽にお申し込み下さい。		

令和六年度全国吟詠コンクール決勝大会実施要項

(1) このコンクールは、わが国の伝統芸道である吟道に親しむ一般並びに青少年に、日ごろの吟道精進の成果を競う場を与えると同時にすぐれた吟詠家を発掘し、これを表彰して吟詠の向上と普及、発展を図ることを目的とし、この「全国吟詠コンクール実施要項」に基づいて実施する。

(2) コンクールは、左の六部門に分けて行うものとする。

区分	幼年の部	少年の部	青年の部	一般一部	一般二部	一般三部
資格	12才未満	12才以上	18才以上	35才以上	55才以上	75才以上

(いづれも年令は令和六年四月一日現在とする)

(3) コンクールの出場者は公益財団法人日本吟劍詩舞振興会（以下「財団」と省略）が全国八地区連絡協議会に委嘱して行われた(4)項の予選大会に出場して入賞し選出されたものであり、「プログラム」に記載された氏名者以外のとび込みは許されない。

尚、少壮吟士として表彰された者はこのコンクールに当初から

参加を認められない。

(4) 地区予選大会の名称とその包含地域

I 北海道地区大会（道央・道南・道北・道東・北紋）
II 東北地区大会（青森・秋田・岩手・山形・宮城・福島・新潟）

III 東日本地区大会（山梨・群馬・栃木・茨城・埼玉・千葉・神奈川・東京）

IV 中部地区大会（静岡・愛知・長野・富山・石川・福井・岐阜・三重）
V 近畿地区大会（滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山）
VI 四国地区大会（香川・愛媛・徳島・高知）
VII 九州地区大会（福岡・大分・佐賀・長崎・宮崎・熊本・鹿児島・沖縄）

へ一般一部へ

118	117	116	115	114	113	112
木戸頌子	森田章恵	瀧下和雄	尾方美千代	甕光生	市川貴子	坂田明
広島	愛知	高知	熊本	千葉	東京	広島
従軍行	壇の浦を過ぐ	峨眉山月の歌	重ねて楓橋に宿す	大楠公	佳賓好主	西南の役 陣中の作

126	125	124	123	122	121	120	119
前重興亮	赤塚善夫	岩江実	岡田洋子	野間澄子	井戸清明	森脇弥生	大野広美
大阪	愛知	岡山	富山	広島	大阪	徳島	大分

134	133	132	131	130	129	128	127
黒川洋三	原田よし子	橋本三千代	佐々木政彦	阿部容子	倉原妙子	遠藤昌成	東原恵
広島	静岡	愛知	香川	道央	大分	東京	香川

- (5) コンクールは次の審査要項によって実施する。
- (イ) 審査委員は原則として本部役員と邦楽専門家によって構成され財団本部理事会で決定する。
- (ロ) 出吟順は申込み後厳正公平な抽選で決定した「プログラム」順番通りとする。変更は特別の事由に基づき、大会会長が認めたものでないかぎり許されない。ただし、それも出場部門の競吟実施中に限られる。
- (ハ) 吟題はすでに発表された本年度指定吟題、幼年・少年の部十題、青年・一般の部十題から選び、届け出たものとする。
- (ニ) 吟じ方は、まず司会者が出場者の番号・氏名・吟題を紹介し、出場者は財団指定「吟剣詩舞道伴奏集」(以下「指定伴奏テープ」という)の前奏を確認して吟じ始める(吟題は言わない)。出吟前後の敬礼は省略する。
- (ホ) 吟詠時間は二分以内に吟じ終るものとする。
- (ヘ) (ホ) 指定伴奏テープの本数及び曲目は、あらかじめ届け出た本数及び曲目によるものとし、変更は認めない。
- (6) 次の場合は失格とする。
- (イ) あらかじめ届け出てプログラムに記載された吟題と異なる場合。

- (二) (ニ) 詩情表現の的確さ、味があるかどうか。
- (ホ) 舞台マナー、吟詠マナー、社会人としてのエチケットが備わっているかどうか。

(ロ) 財団刊行の吟詠教本の読み方に基づいて統一され、本年度指定された詩文の読みと異なる場合。

(ハ) 吟詠の途中で絶句(つかえること)した場合。

(二) (ニ) (ハ) 二分を超えた知らせのベルが鳴った場合。

(ヘ) (ホ) プログラム記載の出吟順番に遅れた場合。

(二) (ニ) (ハ) その他、審査委員長が失格と認めた場合。

(7) 成績の判定は「吟詠コンクール審査規定」(財団内規)によるものとし、发声(声質、技術)、調和、発音、詩心、態度の五項目とし、得点の多い者を上位者とする。上位同点の場合は審査委員長が各委員の意見を聞いて決定する。

(8) 審査の採点は次の各項にウエイトをおいて行う。

(イ) 声の美しさ、品性、渋さなどとともに发声の自然さ、声量の豊かさ、声の明瞭さ、節回しのよさがあるかどうか。

(ロ) 伴奏曲と調和(音程を含む)しているかどうか。

(ハ) 共通語アクセント(わたりを含む)及びガ行鼻音が正確かどうか。

96	95	94	93	92	91	90	89
日高由美子	藤原英輔	胡中重俊	小池義行	磯村秀雄	赤星キミエ	小倉喜久男	前多薰子
広島	兵庫	広島	東京	愛知	愛知	東京	道央
従軍行	重ねて楓橋に宿す	従軍行	重ねて楓橋に宿す	峨眉山月の歌	重ねて楓橋に宿す	(江碧にして)	西南の役陣中の作

104	103	102	101	100	99	98	97
俣岡文明	浮津美津恵	川口照幸	本村忍	池田弘隆	阿部松枝	松田みち子	和久田富代
山形	広島	佐賀	大阪	香川	長野	兵庫	静岡
大楠公	壇の浦を過ぐ	夏日悟空上人の院に題するの詩	夏日悟空上人の院に題するの詩	西南の役陣中の作	従軍行	壇の浦を過ぐ	時に憩う

111	110	109	108	107	106	105
青木昭男	馬場美千枝	伊藤顕	竹川いつ子	中村恭子	神東伸任	尾崎安彦
宮崎	千葉	千葉	香川	広島	愛媛	大阪
	壇の浦を過ぐ	従軍行	重ねて楓橋に宿す	壇の浦を過ぐ	従軍行	従軍行

72	71	70	69	68	67	66
塩田節子	吉田秋良	堀内京子	渡辺良夫	西岡悦子	松浦律子	紀野実知子
徳島	兵庫	静岡	岐阜	大阪	徳島	静岡
西南の役 陣中の作	峨眉山月の歌	壇の浦を過ぐ	時に憩う	壇の浦を過ぐ	夏日悟空上人の詩 院に題するの詩	壇の浦を過ぐ

一般三部

80	79	78	77	76	75	74	73
藤本清美	星名美知子	岡早苗	宮嶋博美	中峰子	品田央子	鈴野七郎	瓜生節子
大分	茨城	愛媛	富山	大阪	道央	神奈川	千葉

88	87	86	85	84	83	82	81
大岩孝子	佐瀬錦子	山口正恵	武田 稔	堀井勲	中野澄子	圖子美知代	古川博輝
広島	福岡	大阪	新潟	香川	広島	香川	長崎

(9) コンクール進行中の拍手、声援、私語雑談及び大会本部許可の報道関係者並び記録班以外の会場内での写真撮影、ビデオテープ録画及びテープレコード録音は禁止する。

(10) 本コンクールにおいて財団が撮影した写真や映像については、財団が発行する雑誌、公式ホームページ及びテレビ放映などにて使用する場合がある。

(11) 入賞者表彰は表彰式典の席上行われ、入賞者数と表彰は左の如くとする。

入賞者数は左記の通りとする。

出場者には参加賞を授与する。

(ハ) (ロ) (イ) 各部優勝者は第五十四回全国吟剣詩舞道大会に於て、全国コンクール優勝者として出演するものとする。

(ニ) 各部入賞者に、次の賞を送る。

〈幼年の部〉

一位 文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・NHK杯

二位 会長賞・銀メダル

三位 会長賞・銅メダル

四位～五位 会長賞

〈少年の部〉

各部優勝者は第五十四回全国吟剣詩舞道大会に於て、全国コンクール優勝者として出演するものとする。

各部入賞者に、次の賞を送る。

一位 文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・NHK杯

二位 会長賞・銀メダル

三位 会長賞・銅メダル

四位～七位 会長賞

〈青年の部〉

一位 文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・NHK杯

二位 会長賞・銀メダル

三位 会長賞・銅メダル

四位～九位 会長賞

〈一般一部〉

一位 文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・民放杯

二位 会長賞・銀メダル

三位 会長賞・銅メダル

四位～八位 会長賞

〈一般二部〉

一位 文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・民放杯

二位 会長賞・銀メダル

三位 会長賞・銅メダル

四位～九位 会長賞

43	尾崎莉於
	大阪
	峨眉山月の歌

一般一部

49	48	47	46	45	44
中澤宏	山田美和	辻寛子	阿部香織	川口和典	原奈緒子
茨城	広島	神奈川	東京	福岡	三重
時に憩う	壇の浦を過ぐ	従軍行	佳賓好主	重ねて楓橋に宿す	大楠公

一般三部

一位	文部科学大臣賞・会長賞・金メダル・民放杯
二位	会長賞・銀メダル
三位	会長賞・銅メダル
四位～十位	会長賞

また、各部優勝者の内から、最優秀者に高松宮妃記念杯を授与する。

57	56	55	54	53	52	51	50
塩谷優香	上野佳香	小藤千枝	佐藤仁美	吉澤純子	徳安秀作	久保田明理	上村善子
愛知	大分	広島	新潟	東京	福岡	奈良	兵庫
壇の浦を過ぐ	壇の浦を過ぐ	峨眉山月の歌	夏日悟空上人の詩 院に題する(江碧にして)	絶句	時に憩う	佳賓好主	重ねて楓橋に宿す

65	64	63	62	61	60	59	58
井戸隆裕	高木恵美子	稻垣亜子	鷺見稔子	田中達也	荒谷早智子	松本亜矢子	原田潤一郎
大阪	山口	大阪	京都	香川	愛知	福岡	徳島
従軍行	壇の浦を過ぐ	西南の役 陣中の作	峨眉山月の歌	夏日悟空上人の詩 院に題する	壇の浦を過ぐ	佳賓好主	大楠公

令和六年度・全国吟詠コンクール決勝大会・出場者区分表							
資格区分 地区別	幼年	少年	青年	一般一部	一般二部	一般三部	合計
	12歳未満	18歳未満	35歳未満	55歳未満	75歳未満	75歳以上	
北海道	1	1	0	0	2	2	6
東北	1	1	1	1	2	2	8
東日本	2	2	2	4	5	7	22
中部	1	2	2	3	6	8	22
近畿	2	3	4	5	6	8	28
中国	2	2	2	3	6	6	21
四国	1	2	1	2	7	8	21
九州	2	3	3	4	8	5	25
計	12	16	15	22	42	46	153
入賞	5位	5位	7位	8位	9位	10位	

◎コンクール出場者氏名

へ幼年の部へ

5	4	3	2	1	出演順
阿部楓生	大沼愛李	佐藤琳	天野永翔	井川駿	氏名
東京	山形	大分	愛知	広島	推薦
江南の春	富士山	菊花	富士山	富士山	演題
					成績

へ青年の部へ

28
原田愛子
大分
九月十日

34	33	32	31	30	29
下北祥子	藤吉瑞季	原光希	小早川麻衣	甲斐七菜子	平岡朋子
兵庫	大分	兵庫	京都	大分	広島
佳賓好主	西南の役 陣中の作	従軍行	峨眉山月の歌	壇の浦を過ぐ	佳賓好主

42	41	40	39	38	37	36	35
大野統也	相澤侑我	森岡梓	森田晃代	若月武絵	平岡大輝	鈴木愛琉	後藤啓佑
愛知	神奈川	愛媛	宮崎	岩手	広島	群馬	三重
壇の浦を過ぐ	壇の浦を過ぐ	佳賓好主	佳賓好主	大楠公	西南の役 陣中の作	壇の浦を過ぐ	西南の役 陣中の作

へ少年の部へ

19	18	17	16	15	14	13
永田菜桜	三浦美結	西部和華	瀬中悠太郎	岩田衣知	栗林祐希	加藤遙真
愛知	東京	岐阜	熊本	大阪	京都	道央
江南の春	早に白帝城 を發す	菊花	弘道館に 梅花を賞す	九月十日	江南の春	菊 花